
伝えられなかった想い

岩崎星空羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

伝えられなかった想い

【Nコード】

N7147E

【作者名】

岩崎星空羅

【あらすじ】

ただあの日の沈黙、嬉しさを俺は永遠に抱きしめ続けている。

（前書き）

こんにちは、星空羅です。

長編サボって、短編書いてすみません；

長編の方も頑張るのでよければ見てください

「流斗ー…」

ぼんやりと、俺の部屋で、俺のベッドに寝転びながら雑誌を読んでいる幼馴染の佐賀真由。

家が隣だから、どちらかが出かけないと四六時中一緒な状態。

こいつは一体、分かっているんだろうか

男と二人でいることを。

しかも俺んちは、親が共働きで家にいないし、家にいる兄弟もない。だからこの家に二人きり。

それに、俺は、真由が好きだ。多分…。コレが恋ならば。

日が暮れ、真由が自分の家から所持してきた雑誌片手に立ち上がる。もう、帰るのか。などと呑気に考えてた。

「んー？」

「実は、私、流斗のこと好きだったんだー」

突然の真由の告白に正直、何のリアクションも出来ず佇む。そりゃ、好きな奴からいきなり告白されて、返事が出来る奴なんていないと信じたい。

「うん。返事は分かってる。」

それじゃあ、バイバイ」

ガチャツと軽快な音共に、忽然と真由の姿が俺の視界から消える。
呆気なく。

まあ、明日返事でもそればいい。

明日は学校があるし、クラス同じだから、
そこで堂々と恋人宣言でもしようか。

「…佐賀真由さんが、フランスに引っ越しました」

朝礼時。

騒がしかった教室に沈黙が続く。

無論、真由の携帯など繋がらなくて。

家の電話など分からないし、先生に聞くのも恥ずかしい。

俺はただ、真由がいつ帰って来てもいいように、
部屋にいることにしよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7147e/>

伝えられなかった想い

2010年12月5日09時36分発行